

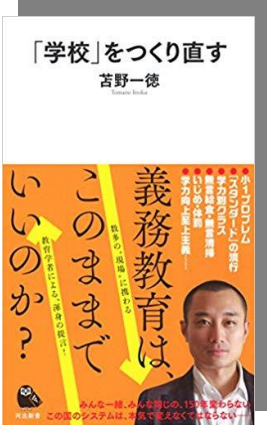
コミュニティ・スクール自主研修会記録

2月14日（金） 17:00～19:00

1. 研修テーマ

コミュニティ・スクールをとおして未来の学校・地域づくり
～人生100年時代に対応する教育システムづくり～

2. 講師 苦野 一徳（とまの いっとく）氏



専門は、哲学、教育学。熊本大学教育学部准教授。また、長野県軽井沢町に設立中の軽井沢風越学園の理事、そしてさらに、全国の多くの自治体や学校等でのアドバイザーも兼任。著書は「学校をつくり直す」、「どのような教育がよい教育か」、「勉強するのは何のため？」など多数。

3. プログラム

苦野先生による講演
(70分)

前半40分は、哲学と教育とのつながりについて。公教育が誕生するまでの経緯について。後半は、「探究」を軸にしたこれからの学びについて。

苦野先生と参加者による対話
(50分)

まず10分で講演の感想を各テーブルで交流。その後、参加者から苦野先生へ質問、感想を伝え、苦野先生に深めてもらう時間を設定。

4. 具体的な内容

苦野先生による講演
(70分)

○そもそも学校とは何か。

人類の暴力の歴史を紐解くと、公教育は市民社会（民主主義）の最大の土台であり、人類数万年の歴史における革命的発明である。

○市民社会の根本原理は「自由の相互承認」。法ですべての人の対等な「自由」を認め、「自由の相互承認」を保障しても十分ではない。すべての子どもに「自由の相互承認」の感度を育むことを土台に「自由」に生きるための「力」を育むことを保障しなければならない。

○「公教育の構造転換」へ

学びの「個別化」と「協同化」の融合。「探究」を中核に据えたカリキュラムの重要性。イエナプランをはじめ、公教育の構造改革は始まっている。そコミュニティ・スクールはその改革の原動力になる。人間が作ったシステムなのだから人間が変えられる。

苫野先生と参加者による対話

(50分)

○地域人材を生かしたり、地域とつながったりするためには何が必要なのか。

(教員、市民)

(苫野先生) 風越学園では、地域の方と話し合いの場を何度も開いて、「こんな学校をつくりましょう。」という企画をしている。そこでは、共通に考える材料が必要となるので、風越学園の場合は苫野先生の著書をもとに、「こんなことができるよね。」というような話を何度も重ねた。そのような機会を重ねていくと、周りが「学校がこんなことをやっているらしい。」というような広がりが出てくる。自分たちが参画している意識が高まってくる。このように、地域の色々な方が集まってこられる“チャンネル”を増やす。また、地域の大学と連携することも有効である。とにかく、開いて対話の機会を多く持つことが重要。また、支援本部を設置して人材バンクのようなもの作っていく。今後は、その人材の中から学校運営協議会の委員になったり、教育委員になったりというようにつながり、地域の方が教育行政を担うという流れも生まれることが期待できる。

○「学校を開く」とはどうあるべきか。

(教員)「ごちゃまぜのラーニングセンター」のようなものは魅力的ではあるが、地域と一緒にやっていくということと、地域と教員が役割分担をしてということには、矛盾を感じる。教員の「働き方改革」に逆行する要素もあるのではないか。

(市民) 地域や学校のやり方もそれぞれなので、「開かれた教育課程」に具現化は難しい。教育委員会なり市が目的をもう少し明確に示さないとだれもしんどい思いをすることになる。地域としても子どもたちを地域を共に学ばせたいし、教員にも楽をさせてあげたい。他のまちづくり協議会もしんどい。

(市民) もともと小学校にゲストティチャーとして関わっていた。2年前、小学校がコミュニティ・スクールのモデル校となり、明石市も教育委員会も学校も変わってきた。最近では学校がとても地域のことを考えてくれている。まちづくり協議会で理事もしている。まちづくり協議会も学校との関係をとっても考えている。まちづくり協議会の会議にも参加してくれている。明石市としてコミュニティ・スクールを進めていこうとする方向性が感じ取れる。苫野先生の話聞いて、色々な世代の人と一緒にやっていくことは、しばらくは大変だろうが、地域の子どもにとってよい学びにつながっていくと考えている。

(司会) 地域の課題と向き合っていくことでその地域の特色が出るのではないか。

(苫野先生) 義務感でやっても何も動かない。わくわくしないと人は動かない。私もPTAの副会長をしていた。教師の働き方改革を考慮し、PTAに仕事を割り振ったとき、教師の下請けをさせるのかというような反発があった。協力関係というより敵対関係が生まれてしまった。やらなくてはいけないことを役割分担するという発想では全く面白くない。お互いが子どもたちとかかわって「こんな学校をつかっていきたい。」というビジョンが共有することが大切。そのためには、一にも二にも対話、対話、対話。やらないといけないことだけがあって、それを割り振るだけではいやな気持ちになる。みんなで楽しい学校をつかっていくためにはどうしたらよいかを考えていくことが大切。熊本市のある地域では、今までトップダウンで決めたことを現場に下ろしていくということをやっていたが、それをやめた。その委員に高校生も入れ、これからの学校現場でどうしていきたいのかということを生徒と、教員と保護者と地域の方とので話し合う機会をた

くさん設けた。そうすると学校が自然と活性化していく。「これやらなきゃいけない。あれやらなきゃいけない。」ではなく、「こうやったら楽しいんじゃないか。」という議論をすると、「やりたいたい。」となっていく。ここで大切なのは、子どもたちもメンバーに加えていく。一緒にどんな学校にしていきたいかを話し合う。地域の実情もあるが、そのような対話を重ねることで、人が人を呼び、活性化していく。このようなことをすると教員の負担が増えると思われがちだが、逆である。教員は意外と対話の場がない。だからこそ、そのような場を設けていく。

教育委員会は「あれやれ、これやれ。」ではなく、支援していく立場が望ましい。教育委員会は基本的には、管理・監督と支援の役割を果たすが、管理・監督により過ぎず、支援を手厚くしていくことが重要。平等配分の考え方から、適正配分の発想をしていくことが大事。必要なところには必要なお金を配分していく。「この地域には、このような課題がある。このようなことをしたら、解決できるから配分してほしい。」という形である。東京都杉並区ではこのようにしている。このシステムを確立するとコミュニティ・スクール、学校、委員会、地域が考え続けるということがシステム化される。そうすると、「この地域にはこのような課題があるから、こんなふうに解決していくというふうにプレゼンしていく。それは、この学校は国語が得意だからこういうことをやっていく…ということではない。あくまで地域課題である。」これがシステム化すると委員会も一緒に地域がブラッシュアップされ活性化されるようになる。したがって、慣例に従うのではなく、このような考え続けることを仕組化することも一例であるが有効だろう。

○コミュニティ・スクールの推進にあたって、できることすべきことは何か。大人に自由の相互承認の風土を築いていくために必要なことは何か。

（教員）コミュニティ・スクールには、組織で取り組んでいかないといけないと思う。風越学園の取組からヒントはないか。

（教員・市民）このように、色々な方に参加してもらえる会を企画するが、なかなか人が集まらない。どうすれば、人が集まるか。自由の相互承認について、大人も難しい。大人の自由の相互承認を対話で図っていくためのポイントを教えていただきたい。

（苫野先生）まず、教員一人でできることがある。単元内自由進度、テストの個別化を取り入れてみる。テストは序列化のための道具ではなく、今どこにいるかを把握するためのモニタするための道具である。個人の望むタイミングで、何度でもテストを受けられるようにすることが本来の姿だろう。これに似た取組で麴町中学校は有名である。これらのことは、教員個別でできる。しかし、探究カリキュラムを中核におくことは学校全体でやっていかないといけない。これはカリキュラムマネジメントなので、先生たち全員でしっかりとやっていかないといけない。その際、重要なのは、「なんのためにそれをするのか。どんな学校を作っていきたいのか。」という根本を徹底的に話し合う機会を年に2、3回設けることが必要。校内研究に組み込んで進めていくべきである。先生たちが青臭い話をするのが大切。「自分は何のために教師になったのか。どんな先生になりたいのか。どんな学校をつくりたいのか。」そのような話をするのが大切だが、意外とこのような話はしない。表面的に嫌いと思っているような関係でも対話することによって、打ち解け合うこともある。そのような話をうまくファシリテートするととても盛り上がる。「個別化・協同化」を妨げる制度的なものは何もない。標準事業時数の提示の仕方も今後変わってくるものと考えている。文科省も「学びの個別最適化」に向けての動きがある。行政もこのような自主研修

をたくさん実施していくことが重要。できるだけ悉皆型の研修をなくす。自主研修に予算を使う。そうすると現場が活性化する。アイデアをたくさん出して、実情に合わせて合わせ技でやっていくことが重要。

学校が同質性の高い集団なので、相互承認の風土を築きにくい。同質性が高いがためにそこから逸脱する者の自由を認めようとしなくなってしまう。逸脱する者に対して「ずるい。」という言葉が出てくる。少しでも異質性が出てくると攻撃されるようになる。また、ルールを一方向的に押し付けられる経験があまりに多い。学校教育はルールを作り合える市民を育てるはずなのに、ルールを作り合う経験をしていない。「従え、従え」で来てしまっている。日本人は、ルールは自由を縛るものであり、上から与えられるものという感覚をもっている人が多いが、本来は真逆である。本来はみんなで作り合うものであり、みんなが自由になるべきものである。にもかかわらず、常に「ルールを守れ、守れ。」でいくとお互いの自由を認め合うのではなくて、そこから逸脱する者を攻撃する感性が育まれてしまう。なので、大事なことは子どもたちと学校を一緒につくること。徐々に徐々に子ども自身がオーナーシップをもっていくようなやり方で学校をつくっていくことが大切。大人も同様でそのようなかかわりの中で、自分たちで学校をつくっていくんだという感覚が育まれていくと、自由の相互承認の感度は高まっていく。

5. 参加者からのアンケート

(1) 研修会に参加した理由

- ・ 苫野先生と出会いたかったから（教員）
- ・ 現在 PTA の副会長をさせていただいていますが、子どもたちのために、学校づくりをすすめる上で、学べることがあればと思い参加しました。（市民）
- ・ PTA、小学校、まちづくり協議会の一体とした子育てを学ぶため。（市民）
- ・ 学校のシステムをどう変えていけばいいのか、どのように地域とかかわっていけばいいのかが知りたかった。（教員）
- ・ 先生の本を読んで、これからの教育について知りたいとおもったから。（教員）
- ・ CS についてはまだまだ「知る」ということが必要な段階で実際に苫野先生のお話が聞けるといいう大変貴重な機会に絶対参加させて頂きたいと思いました。（教員）
- ・ コミュニティ・スクールと言葉だけが耳に残っていて、実際に何をどうすればよいか、苫野先生のお話を聞いてみたかった。また、市民の方との一緒に講演会がどんなものか、どんな考えをもたれているのか知りたかった。（教員）
- ・ 職場の研修で苫野先生の本を読ませていただくことがあり、今回の研修に参加しました。（教員）
- ・ コミュニティ・スクールについて学びたかったため。（教員）
- ・ 教育システムについて学びたかったから。（教員）
- ・ 私自身、小学校に勤務しておきながら、コミュニティ・スクールについて理解できていないため。（教員）
- ・ 同僚の教師より本を紹介してもらい、読んだところ苫野先生の考え方に共感するところがあり勉強になると思い参加させていただきました。（教員）
- ・ 苫野先生のツイッターで興味を持ち参加しました。（行政）
- ・ 苫野先生の本を読んだのがきっかけです。これからの学校についてさらに学びたいと思いました。（教員）

- ・コミュニティ・スクールの担当になり、お話を聞いて勉強したいと思いました。また、著作を拝読して興味深い内容であったので。（教員）
 - ・職場でのチラシ（教員）
 - ・コミュニティ・スクール自主研修会、全部参加させて頂いております。人権推進員として先生（学校）と地域との存在をいかしてコミュニティ・スクールを進めていければと思います。
- （行政・保護者）
- ・コミスクを次年度よりどのように運営していくのか、不安と疑問がたくさんあったので、研修会にはなるべく多く参加したいと思っています。（教員）
 - ・コミスクを次年度よりどのように運営していくのか、不安と疑問がたくさんあったので、研修会にはなるべく多く参加したいと思っています。（教員）
 - ・よりコミスクをすすめるための方法をしりたかったから。（教員）
 - ・コミュニティ・スクールということに興味があって。（一般市民）
 - ・議員を目指しており、行政や教育に関心を持っているため。（学生）
 - ・苫野先生の本を読んで。子どもの世界が分断されている。日本の教育を変えなければ子どもたちの命がこわれていく危機感を持っています。
 - ・コミスクの考え方に私も賛成ですが、それに向かうまでの問題はありますが、なんとか子どものためにコミスクを実現する方法を知りたいと思ったからです。
 - ・苫野先生の本を何冊か読み、これからの教育はこれだと思ったので、直接話を聞いてみたかった。（保護者）
 - ・これからの学校教育に必要なものはものづくり、技術の錬磨による教育や書道華道等による道徳教育と集中力の育成が大切と思うので今後の子どもの成長に何が必要か？不登校、発達障害児をどう考えるか等勉強がしたい。（一般市民）
 - ・自分は校区 UNIT 担当をしていますので、地域、校区、コミスクを推進していく立場として学びたいと思ったから。（教員）
 - ・苫野先生のお話をお聞きしたかったからです。（教員）
 - ・苫野先生の本を読み、現在苫野信者になりつつあります。その先生の話が聞けるといことですぐ申し込みました。（教員）
 - ・明石市在住の知人からの紹介で参加しました。コミュニティ・スクール、これからの学校の在り方等に興味があり、また苫の一徳さんの話を聞きたかったということもあります。（教員）
 - ・苫野さんの本を学生時代から愛読しており、お話を聞いてみたいと思ったから。
 - ・苫野先生の本を読んで、より詳しく知りたいと思い研修に参加しました。
 - ・哲学が好きで実践しています。著書を拝読し、興味があった。明石の教育をより良くしたいからです。
 - ・学校改革の一助にしたいから。
 - ・同僚にすすめられたから。（教員）
 - ・まちづくり協議会役員をしており、地域と学校の繋がりを強くする必要を感じております。これまで数回の研修を受けているが行動し、学校との繋がりを強くするためにも人材の掘り起こしについてのアドバイス等を知りたいと思い受講しました。
 - ・職場でのチラシと知人の口コミで話を聞いてみたいと思い参加しました。（教員）
 - ・コミュニティ・スクールという言葉が最近よく耳にして、教育委員会のコミュニティ・スクール

の書面だけではわかりにくいので今日、思い切って参加しました。（教員）

- ・学校に届いたチラシを見て。（教員）
- ・勤務校の校長が興味深いものがあると教えてくれ、これからの教育について考える機会としたかったため。
- ・コミュニティ・スクールに興味があつて。（行政）
- ・明石市の教育がどのように変わるのか見てみたかった。（保護者）
- ・苫野先生に直接お話を伺いたかった。23年のフリースクールの実践を照らし合わせたかった。（振り返りをする必要があつた）（一般市民）
- ・これからの学校について、まずは知ることが大切と思い、学校長より紹介され、是非拝聴したいと考え参加させて頂きました。（教員）
- ・苫野先生の話をお聞きしたかった。（教員）
- ・苫野さんの話を聞きたかった。（教員）
- ・苫野先生のお話を聞きたかった。本を読んでもっと詳しく知りたかった。
- ・子どもの育ちとコミュニティに関心がある。将来地域の中で活動したい。
- ・以前京都で苫野先生の講演をお聞きしました。今までの自分のやり方や考え方に新しい方向性を具体的に示していただいたように感じたので、もう一度お話を伺いたくと思い、参加しました。（教員）
- ・書籍を通して「自由の相互承認」の考え方を知り、実際にお話を聞いて、その思想の背景を体感的に学びたいと思い参加しました。（教員）
- ・コミュニティ・スクールのつくり方を学びたく参加しました。（一般市民）
- ・「まちづくり」を通して簡単ではないと思い、苫野先生の本を通すだけでなく直接お会いして感じたかった。（一般市民）
- ・小1の保護者としてコミュニティ・スクールの仕組みで貢献できるヒントを得るために参加しました。（保護者）
- ・大学の友人の紹介。（学生）
- ・大学の友人のすすめ。（学生）
- ・①苫野先生のお話を聴きたかった。②苫野先生を講師に学ぼうとする明石の教育委員会の方に興味があつた。①②の理由からきっと新しいことを学んでいけるだろうと思って。
- ・誘われて、内容もくわしく知らず参加してしまいました。（一般市民）
- ・学生の頃からヘーゲルの相互承認論の教育学的意義について関心を持ち、研究していたこともあり、教育の閉塞感を強く感じたため。（教員）
- ・学校づくり（150年つづいたこの学校をよりよくすること）。苫野先生の哲学に興味があつたので。（教員）
- ・苫野先生のお話を直接聞きたかったのと、学校のシステムを変えていかなければならないとかんじているため。（教員）
- ・苫野先生の本をいくつも読ませていただいていたから。（教員）
- ・コミュニティ・スクールの推進していく上で学校の教育活動へのCSの活用や地域の活性化など学びたいと思いました。（教員）
- ・コミュニティ・スクールで公開講座の担当をしたり、学校運営協議会のお手伝いをしています。大変興味があつたので参加しました。（一般市民）

- 地域との関わりの中で、これからの教育がどうあるべきなのかということについて、様々な方と意見を交わしたい。（教員）
- 以前から苫野先生のことを SNS で知り、本を読んでいました。風越学園にも興味があり参加しました。窮屈な現状（教師にとっても子どもにとっても）を少しでも変えることができたらと思っています。（教員）
- 苫野先生の本を読んで、一度話を聞いてみたいと思ったから。また、学校現場が良い意味で楽になったり、子どもにとって、よりよい学校をつくるヒントが欲しかったから。（教員）
- 哲学や探究 苫野先生の話聞くため。（教員）
- 苫野先生の本を読んで興味を持っていたから。（教員）
- 苫野先生のお話を聞きたかったのが一番と、明石の取組に興味があったこと。（教員）
- 苫野先生の本が好きで、一度お会いしたかったため。（学生）
- 当小学校も昨年「学校運営協議会が発足し、委嘱状の交付は受けたが具体的な活動はなかった。中身の無い「学校運営協議会」では意味がないので、R2 年度は目標（計画）を立ててみえる成果を出したいと思っています。今日はそのヒントが得られればと思い参加させていただきました。（一般市民）
- 著書を読んで感銘を受けたから。市民の方も参加される会と知ったから。（教員）

(2) 研修会に参加しての感想・意見等

- 信じて！任せて！待って！支える！これですね！
ごちゃまぜ大好きです。子どもも大人も自由にふれあえる学校づくりに力を頂きました。大人の持っている“学校のあたりまえ”をぶっこわすしかない気がします。“大人が変われば子どもが変わる”今日の学びを明日から必ず活かします。苫野先生はじめ明石市教育委員会のみなさまありがとうございました。（教員）
- 私たちの小学校では、まさしく教職員の改革、PTA の改革を行っています。「全ては子どもたちのために」を合言葉にどうすれば、学校、保護者、地域が手を取りあい、新しい学校に進化させていくかがテーマです。今回のお話を聞かせていただき、地域の方々をもっと取り込んでいくにはどうすればいいのかというテーマを深く考えていくことがもっと必要だと改めて思いました。（保護者）
- 特に後半の話し合いで出された「コムスクへのステップ」は今後取り組むに値する内容で大変参考になり、意欲が湧いてきた。思い切った変革への取組をめざしたい。（教員）
- コミュニティ・スクールの存在意義については理解できました。名称は知っていますが、内容については PTA 役員、地域役員共に多くの方が理解していない状況です。地域レベルでの学習会開催をお願いします。（一般市民）
- もう少し具体的なお話をじっくり聞いてみたかったです。「自由の相互承認ができる人をつくっていくための土台に学校が」という話がありましたが、どうシステムを変えていけばいいのか、私たちは限られた時間の中で、新しい世の中の変化に対応していかなければいけないので、とても困っています。苫野先生のお話はとても面白いので、少しでも思いが実現できればと思っています。（教員）
- 私たち（50 代後半から 60 前）の時代には、地域と関わるが多かったように思う。近所の人たちと一緒に過ごすことが多く、学校でふれあっていたと思う。温かい、ゆったりとした学校

生活が夢・希望。今の時代、学校も上からしないといけないことが多く、全くもって余裕はない。大人の間関係の希薄さ（近所付き合い）がまず問題かな。この原因は・・・どこ？昔のころのようになればいいのですが。先生の話聞いて、私たちが育った時代を思い出しました。（教員）

- ・講演の聴衆がみんな目に力をもって苦野先生のお話を聞いている、他者の話を聞いている、この研修会の場がとても濃密な素晴らしい会になっている、参加者が作り上げていると実感しました。いろいろな立場の人たちがコミュニティ・スクールということを通して一つの大きな目的に向かって何ができるかを考えるこの機会は今後も何度も持ちたいと思えるものです。今回来場できなかった方にも是非参加してほしいと思います。（教員）
- ・色んな立場の方の話聞くことで、自分の世界でない考えに触れることができました。本校の弱み、悩みをもう一度みつめ直して「こんなことが困っている」「こんな風になりたい」ということを地域、保護者、いろいろな人と話すことがやっぱり大切なんだなと思いました、探求学習については、学校の特色を生かすことからやっぱり自校でカリキュラム・マネジメントしないといけないなと思います。いろんな課題はあるような気がしますが、相手を思いやる、やさしい人間関係や幸せな生活を誰もがもてるようにしていきたいです。教育、学校は本当に変わっていくんだと感じてきます。ちょっと焦ります。研修会企画、ありがとうございました。（教員）
- ・小学校で低学年の担任をしています。それぞれの個性や能力を持った子どもたちと過ごしていく中で、それぞれの能力差があるにも関わらず、みんなと同じことをさせてしまっているなと思いました。自由の相互承認を育てていけないと思いました。また、学生の時にわくわく地域未来塾でお手伝いをさせていただいたのですが、それがコミュニティ・スクールの中の取組の一つだと知りませんでした。今は教員を始めたばかりで、知らないことばかりの毎日ですが、まずは様々なことを知るために、勉強していきたいなと思いました。（教員）
- ・教員の立場だけでなく、地域の方々や学生の方々のお立場からのお話が聞けてよかったです。実際にコミュニティ・スクールのモデル校にいらっしゃる先生のお話が聞けたのもすごく良かったです。もう今までのいろいろな経験や感覚や知識では進めていけないような、進めていくにはもう日本の教育じゃないような、でも変えていかないといけない！とすごく思いました。自分が教員をしている間に、そんな教育へと変わって行ってほしいと思いました。（教員）
- ・自由の相互承認に大切さ、同町圧力・同質性等のデメリットの点など勉強になりました。子どもたちの学びの個別化。協同化、融合についてどうしたらよいのか考えていきたいと思います。問い・問題解決・発表をする学びの深まりにチャレンジしていきたいです。（教員）
- ・しなくてはいけないことを分担してではなく、したいことを取組んでいくことができれば良いなと思いました。（教員）
- ・『「学校」をつくり直す』の著書を読んで参加させていただいたことがとても分かりやすく、お話を聞かせてもらうことができました。様々な立場の方のご意見を聞いたことも、それに対する苦野先生の考えを聞いたことも大変良かったです。私たち教師一人一人が、今、求められている教育とは何か、しっかり考えることが大切だと改めて思いました。一人ですることにはまずやってみること、そして、経験に頼るのではなく、教師同士で考えあって仕組みをつくっていくことが大事だと思いました。有意義な研修をありがとうございました。（教員）
- ・苦野先生の描かれている学校を公立で実現するためのステップ・手立てが知りたい。実際に行っている公立校はどんな取組からおこなっているのか知りたい。（行政）
- ・「教師」という言葉も変わらないといけないのかなと、思いました・「共師」「共土」？学校教

育でできそうなことを考えたり、地域とのつながりをどうできるかについて考えたりできました。具現化するにはまだ難しいところも多々ありますが、少しずつ自分もできることをチャレンジしてみたいと思います。（教員）

- 学校としてのシステムを変えることは、今、現在難しいイメージがあります。少しずつ、地域の方が入りやすい環境を作っていくことが必要だと思います。どんな学校したいかを共有することや、負担感を減らすことなど今後の課題になると思います。また、探求は非常に良いことだと考えますが、教師のファシリテートする技量が大切だと思います。（教員）
- 目からウロコでした。地域と共に子どもたちが学ぶことができるのととてもしあわせだなと思いました。地域全体がそんな学校にしたいとおもえるようにしていきたいと思います。（教員）
- 毎回参加させて頂き、とても勉強になります。今回も小さなお子さんを連れてこられたお母さん2人とお話できて、地域の人にも興味を持ってもらえ、一歩ずつ前に進んでいると実感しました。色々な方とお話ができる機会だと思っても、このような時間はとても刺激になり素敵だと思います。ありがとうございました。（行政・保護者）
- ますます疑問が多くなったこと、どうすればいいやろというのが本音です。
- 哲学の先生だけに、哲学的な話も多かったが、ルールは何のためにあるのか？学校は何のためにあるのか？を原点にもどって考える時期にきていることを痛感しました。このことにより現在課題となっている様々な教育課題が解決の方向に向くのだと思います。現在の「あたりまえ」を見直し、改めて学校をつくるというワクワク感を原動力に明日からできることを自分なりに頑張りたいと思いました。（教員）
- ごちゃまぜの複合型施設や子どもたちに企画から実行まで任せて、子どもはできるんだということが確認できる場がフリースクールにはありません。ぜひ、コミュニティ・スクールの学校運営協議会のコーディネーターの方に見学してもらえたら何か役に立つかもしれません。
- コミュニティ・スクールの在り方について、もう少し考えていかなければならないと思い、研究していこうとおもった。また、地域に持って帰り、実践していきたいと思う。ありがとうございました。（学生）
- 「自由の相互承認」周りの人と勉強していきたいです。今回参加出来て感謝します。明石 注目しています。（一般市民）
- 地域の人にも、教員も、子どもも、みんながワクワクする夢のようなものだな、ぜひ自分もかわってみたいと思いました。ただ、仕組みづくりが大変だな、そして大切なんだと分かりました。働き方改革や負担のしんどさを教員が前面に出すのはきっと進歩がないのだなということも分かりました。地域に広げるとその職場の教員よりももっと秀でた特技をもった方がいるはずなので、「つながり」作りがやはり大切だと実感しました。コミスクが実現できるよう私自身も力を尽くせたらと強く思いました。（教員）
- 地域の人にも、教員も、子どもも、みんながワクワクする夢のようなものだな、ぜひ自分もかわってみたいと思いました。ただ、仕組みづくりが大変だな、そして大切なのだと分かりました。働き方改革や負担のしんどさを教員が前面に出すのはきっと進歩がないのだなということも分かりました。地域に広げるとその職場の教員よりももっと秀でた特技をもった方がいるはずなので、「つながり」作りがやはり大切だと実感しました。コミスクが実現できるよう私自身も力を尽くせたらと強く思いました。（教員）
- コミュニティ・スクールというのは、ほとんどしらなかったが色々な人の話が聞けて勉強になり

ました！もっと苫野さんの話を聞きたかった！！（保護者）

- 色々参考になりました。私としてはまずは633制から66制の学校教育にして上下関係の行かれた学校教育から始めて発展していくのがよいのではと思います。家族で学ぶ、地域で学ぶ、全員で学ぶ形が大変良いことだと思います。私も個性に合わせて書道教育を中心に行っていけると思います。ありがとうございました。（一般市民）
- 学校で働いていると狭い世界だけの視野になりがちだが、まず地域を知ることから始めようと思いました。明日から急にたくさんのはできませんが、一段ギアを上げていくことが大切なのだとなつていくことができました。一番心に残ったことは同質性の高い集団＝学校ということです。クラスでもはみ出そうとする子を注意してしまいましたが、彼らの異質性も認めながら教育していかなければならないことを痛感しました・異質な他者との出会い、学びこそ大切ですね、今後は探究を中核にしたカリキュラム・授業づくりを意識して少しずつ取り組んでいきたいです。

（教員）

- お話の内容はどれも納得させられましたし、魅力も感じました。ただ現状と比べた時、果たしてどれほど実現可能性があるのだろうかという疑問もあります。一教員が、一学校がどこまで変えていけるのでしょうか。正直難しさを大きく感じます。でも問題意識をもただけでも意味は大きいと思います。できることから始めていきたいです。（同僚と話す等）参加させていただけて良かったです。ありがとうございました。（教員）
- 自由の相互承認について、自分なりに考えていることと、苫野先生の話とを重ねて、改めて感じることがありました。今の自分の学校でこれをやるためには課題が多いと思います。まずは教育観を語るということからやりたいと思います。（教員）
- 明石市が取り組まれていることがよくわかりました。未来を見据えていち早く動き出すことの大切さを実感した気がします。大変勉強になりました。地域の方が参加しているということが素晴らしいと思いました。（教員）
- 今まで哲学に触れたことがなかったので、哲学の面白さや必要性を学ぶことができました。3ヶ月オランダでイエナプラン教育の研修を受けてきて、とてもイエナプランと重なるものがあるなと感じました。苫野先生のお言葉の中で、今までと違った教育になってくると言われており、今までと違う教育の良さや必要性を周りの人に伝える難しさがあるのかなと感じました。（経験しないと難しいのかなと）研修がとても面白かったです。（教員）
- 教育現場では「教科書を教えないといけない」という風潮がまだあり、少しでもなくなればと思います。授業時数については発言もしましたが、管理ではなく、信頼で自由度が欲しいです。（探究を置き換えにしてほしい！）習字の学習を地域人材で活用できないか。小中の義務教育学校が作れないか。（教員）
- 共感できることがとても多かったです。ありがとうございました。（教員）
- 地域の方と対話ができ、非常に勉強になりました。それぞれの立場で考えを出し合いましたが、いざ実行していくとなるとシステムの面で難しいという話になりました。子どもたちに常々対話しようと思っていましたが、自分が全然対話をしていないなと思いました。今後は地域の方々や教職員と対話していきたいと思いました。本日はありがとうございました。（教員）
- あまりにも教員向けの研修用語が多い。学校は地域とともに子どもの人間力「生きる力」を育てることと考えているが、地域とどのような関わりが大切なのかがわかりにくい。思うに学者見識では人間としての道徳共助等の実践現場を知らないのではないかと感じた。教育委員会が本気に

なっているのかわからない。また、学校のトップが本気にならないと前進しないのではないかと
思う。まちづくり協議会とのコラボが必要だと考えます。（一般市民）

・開かれた学校とは何なのか・・・とても考えさせられました。対話することが大切で、どのよう
な学校を作るか皆で考えていくことはとても大切だということは納得しましたが、それをまとめ
ていくこと、話をする時間等どこから作っていいのかと考えてしまいました。今現在も学校
ないで確かにどんな学校にしていこうかという話はされていないように思います。それがそこま
で話をする時間が全くないほど、日々の業務に追われていると感じます。でもそこに時間がさけ
るように学校や私たちが進化しなくてははいけません。（教員）

・直接お話を伺ってとても良かったです。先日は「みんなの学校」の木村泰子先生のお話を聞かせ
てもらって、地域力が大事だと。一人のちょっとしたおせっかいなおばちゃんとしてできること
を見つけて、子どものためにできることをとっています。学校がいい方向に、子どもの幸福の
ために大きく変わっていくことを期待しています。「何にため」はとても大事だと思います。
（一般市民）

・コミュニティ・スクールが学校教育にどのように関わりを持つのか考えることができました。ま
た、「探究」をカリキュラムの中核に置くヒントをいただけたような気がします。こういった考
え方が広まるように現場でも話をしていきたいといます。ただ、それぞれの教員がやっている
だけではダメで、それぞれの学校でやっているのもダメなことだと思います。このような研修会
を増やしていただき、また広く宣伝していただき、より多くの教職員が同じ考えの中でシステム
を変えていく必要があると感じます。（教員）

・「目的がちがう」という視点は興味深いと思います。教育は何のためにするのかという本質的な
部分だと思いますが、学力の保障という側面はどうなるのか気になります。4割時数の削減を考
えた時、ゆっくり学びたい、ゆっくりしか定着しない子はどうしていくのか、熟考しないと悲惨
な結末になってしまう気がします。（教員）

・苫野先生にお話とコミュニティ・スクールがどうつながるか興味がありました。地域をつくる原
動力の一つとして、コミュニティ・スクールづくりに行政職員として関わっていきたくと思いま
す。（行政）

・先生方の熱心な意見を聞いてすごくよかったです。未来はあかるいのかなと思いました。不登校
の子がたくさん家で、一人で過ごしています。みながいろんなことを選択できる社会、早くそう
なってほしいです。（保護者）

・不登校の子どものフリースクールをしています。私たちの活動はコミュニティサポートだ
と思っています。異年齢などの分断はなく、生活の中から子どもたちの興味関心をひろげていく多
様な学びなので、苫野先生のおっしゃるスクールに近いと感じた。子ども全体で地域とともに大
人も共に学び合っている子どもの居場所はオランダのイエナプランに近い4つの柱を持っている
こと、又学習指導要領を意識した時に子ども自身の活動やニーズを叶えてみると自ずと学習指
導要領に重なっていたのです。つまり枠にとらわれない学びの中でこそ子どもの知的好奇心“探
究”“創造”を生み出すということを改めて実感しました。（一般市民）

・学校とは自由の相互承認の原理というのが特に心に残りました。まずは個人でできること、そし
て学年でできること、学校でできることというようにスモールステップを踏んでいきたいと思
います。大変考えさせられた研修となりました。ありがとうございました。（教員）

・参加が遅くなりまことにもうしわけありませんでした。「学校を開く」ということが目的ではな

く、目的=未来に対して力強く生きていく子、互いに力を合わせて生きていくことができる子を育てる「自由を得る力」「自由の相互承認」。そのため？に地域に開く・・・そのことがストンと落ちないところがあります。（教員）

- 自由の相互承認は核になる。日々の仕事を、ワクワク感を持って取り組みたい。できないことをどうできるようにしていくかは、今回の事例から学ぶことができる。（教員）
- 地域で輝く子どもについて、最近考えます。学校も地域に開き、地域の中で子どもが育つ、そんな風になったらなと思います。（教員）
- 学校の中でも職員会の対話が大事だと思いました。大人のコミュニティから・・・。（教員）
- 子どもを支えたいという考えはどの立場の人も持っているのに熱意や疲労の度合いの差が激しく、うまく機能しきれていないことを知った。コミュニティ・スクールの存在はより現場に密着した地域と学校を結び場になるのかもと感じた。地域により様々な課題があり、共に開かれた環境を築くためには楽しさ（わくわく）が必要だ。対話に参加してもらい、積極的に意見を出すためにどのような環境を整えればよいか。（教員）
- 理論の柱について改めて触れ、これからの学校の在り方について今一度考える機会になりました。コミュニティ・スクールはともすれば仕事へのスライドに終わってしまい、かえって負担が増すという現状もあるのか、どうメリットを示していけるか、対話をカギに探っていくことの重要性について考えていきたいと思います。（学生）
- だれもが学校に行くのが楽しく、だれもが成長できる学校になってほしいです。（一般市民）
- 心は熱く、頭は冷ややかに。（一般市民）
- 探究学習の役割と効果についてよく理解できました。実践できればと考えています。（一般市民）
- 探究学習の役割と効果についてよく理解できました。実践できればと考えています。（保護者）
- 大学の講義で教育哲学という授業が開講されていたが、今日の研修会で教育と哲学は非常に重要な関係があるのだということを理解することができた。公教育において法で土台を作り、教育でその土台について学ぶと同時にすべての人との協同についての意識を育み、福祉で貧困・障害その他の理由で協同からこぼれ落ちるひとを防ぐというこれらの要素が関連し、構成されることによって成り立つのだということが分かって良かった。（学生）
- 本日は貴重な機会を頂き教育委員会の方々、苫野先生ありがとうございました。私は大学生ですが、これまで学校は子どもが学ぶ場として考えてきましたが地域の人々や保護者も取り入れて一緒に学校をつくるという考えにとっても共感しました。これまでも学校に地域の人々を呼んで何かをつくったり、話を聞いたりする機会はありましたが、学校を「地域の中にある学校」という視点でとらえることはとても重要だと感じました。（学生）
- 地域の人をどうやって学校に活かすか。私のところは1学区に1人以上のコーディネーターを置いています。苫野先生も言われた学校支援地域本部事業はコミュニティ・スクールの入り口としてはとても良かったと思います。又、地域の団体のあて職や団体を動かそうともしませんでした。できることでできるときに無理なく楽しくをモットーに個人で参加してもらいようにし、今、保護者を含めたくさん来てくれます。PTA との連携で若い世代が地域の異世代の人々と出会い、みんなで楽しくやっています。仕組みづくりもやっていて年々変化しています。大事なのは地域も主体者として参加することだと思います。（一般市民）
- 「哲学」の先生と知り、お話がむずかしいのかと思いきや、とても面白く聞かせていただきました。コミスクを始めている三田市ですが、本当のコミスクにはなっておらず、地域の私としては

「こうなったらイイなあ。子ども時代（学童期）は楽しんでほしいなあ」と思いながら学校支援にかかわっています。数年学校の様子を見ていると「これからは学校・地域・保護者がつながらない」とばかり。具体的にどうするのかの話ができていません。今日のお話を聴いて、勉強していかないと学校とも対等に話すのは無理なのかなと思いますのでがんばります。（先生の本を読んでもみます）（一般市民）

- 「コミュニティ・スクール」という非常に実践的・活動的課題への提言だったため、とてもアクティブでよかったです。ただ、明石市は本気で評定をなくし、「探求」を中核にしたカリキュラムを実行するつもりでしょうか？これだけ大きな会を開いておいて実際にカリキュラムマネジメントしようとするのがブレキをかけることがないよう願っています。（教員）
- 自由の相互承認の大切さを学びました。（大人でも難しい）人間の作ったシステムだから人間が変えられる。逸脱した子（不登校）をずるいと思ってしまいます。ルールに従うものだと思ってしまう。ではなく子どもたちがルールや学校を作っていくことが大切。総合的な学習の時間を活用してこれができればとよいです。（教員）
- もっと苫野先生に話を聞きたかったのと、時間はもう少し遅い方がもっと人が集まって良かったのではないかと思う。今回の講演で学んだことを現場に戻って伝えていけたらいいなと感じている。周りの教師を引っ張って活動を行っていかないといけないと感じている。少しずつだが現場から学校の改革を行っていきたいと思えた。（教員）
- まず多くの方がこられていたことにおどろいた。それだけ関心の高いテーマ・考え方なのだろうと思う。これから探求型のカリキュラムに変わっていくと思うが、その前になぜ探究なのか、なぜ変わらないといけないのか、など青臭い話を職員室からしていきたい。（教員）
- 若い人が多く参加していたことがすばらしく、自分も学びつづけたい。苫野先生の本をもっと読みます。（教員）
- 学校・まちづくり協議会・地域にとって、困難や苦労も多いかもしれませんが、面白い楽しいことが始まるのではないかと思う。学びの複合施設化とか探究学習はすぐには実現しないかもしれませんが、重要な視点であると思います。少しでも実現させたいものです。（一般市民）
- 同じような思いを持たれた方、苫野先生が考えておられる学校の在り方について、悩まれている方とお話ができとても有意義な時間になりました。やはりシステムが変わる時には、とても大きな労力が必要だと感じましたが「わくわく」する思考へとチャレンジしながら自分ができることからやっていきたいと思いました。ありがとうございました。（教員）
- 「自由の相互承認」が、今の学校で保証されているのかと疑問に思う。苫野先生のお話で、教師も子どもの「生きたいように生きたい」思いをもっと大切にしなければと思った。ただ、現在の明石の学校の現状では難しい。いきなりシステムを変えるのは難しいが、まず、教師がそういうことを考える時間と余裕がほしい。能力のある先生方さえも、疲れ切って、毎日をこなすだけが精一杯だ。苫野先生の言われるような教育がしたい。でもそこに打ち込める時間と余裕がない。教師の働き方改革が急務だと思う。理想をあきらめたくない。まず、古いものをやめてからだと思う。思い切った削減が必要。細かいことですが各学校におろす前に本当に必要な出張か、報告か、研究発表会かなど、市の方も考えていただきたい。（教員）
- 先生の話で学校とはから考えるきっかけをいただきました。また、自分が向きたい先の実践の形を知ることができ、よい時間でした。学校では子どもの話や授業の話はよくしますが、学校の向かう先や学校にあり方を話す機会はあまりないため、いろいろな方々と交流できとても学びが深

まり、広がりました。貴重な時間ありがとうございました。（教員）

- 苫野先生のお話をたくさん聞きたかったです。時間が限られているのが残念でした。地域の方々の話も参考になりました。本日は有意義な機会を与えていただき、ありがとうございました。ご協力できることがあれば参加させてください。（教員）
- 知らないこと、普段考えられないことをたくさん教えていただけてすごく刺激を受けました。ただ、これからどう行動していけばよいのかははっきりしないので、家でもう一度考えを整理したいと思いました。（教員）
- 明石市の目指すコミュニティ・スクールの考え方を知れて有意義が時間でした。「変革」のステップ、いろんな立場の人が試行錯誤しているんだなぁと感じた。ぜひ自主的な開かれた研修、今後ともよろしくお願いします。今日はありがとうございました。（教員）
- 探究する際「探求しないと・・・」となりがち。だけどアプローチしないと。子ども自身の力で探究できる子もいれば、できない子もいる。だからアプローチをするのは大切だけど、子どもに期待しすぎない。期待しすぎると、子どもの関心は無視になってしまう。こどもに合わせて探究すべきなのだと思う。（学生）
- PTA 会長を行っておりますが、PTA でコミュニティ・スクールをテーマに勉強会を行いました。理想はある程度見える部分があるのですが、人材各日や改革意識を持っていくことが難しい。そのお話を先生にお聞きできてよかったです。（保護者）
- 昨年、委嘱状を受けた対象団体（代表者）は4団体だったが、もっと幅広く協議委員を募ることが必要ではないかと思った。当校ではオープンスクールが開催されその中で特別授業として「昔の暮らし」と題して地域の高齢者の方が子どもたちにワラジ。かまど、いろりなど昔と今の違いについて現物なども持ってきて講義（ふれあい）されていた。こんなところを火種にして地域住民と学校の関わりを拡大していけばいいのではないかな（R2 年度の活動に提案）と思った。お願いがあるのですが、今回のような講演（講義）が一般的なのかもしれませんが、講義内容の資料がなくメモ取りに必死でした。今回の研修に限らず、受講内容は帰った後、自分自身の復習も兼ねて概要をまとめ（メモ程度）関係者（スクールガード、まち協）への報告（協力のよびかけ）に心掛けています。スライドの撮影が「可」であるならば、全画面とはいわなくても画面の印刷物をいただきたい。我々高齢者は、筆記するのも大変なのでいただいた資料に捕捉する形で話された内容を追記（メモ）することができれば、講義もしっかり聞くことができる。（一般市民）
- 苫野先生のお話もよかったのですが、様々な立場の方が同じテーマについて話を聞き、学校をどう作るか、どのような学校にしたいか話し合う機会となったことが非常に意味深いことでした。それぞれの立場で自分にできることをしていくことと、対話を重ねていくことをこれからしていきたいと思います。同じような思いを持って学校をつくるという意識をもつ教職員を増やしていきたいように頑張っていきます。（教員）